

支部便り

中国四国支部 第48回若手フォーラムの開催報告

Report on the Forum for Young Philosophers of Chugoku and Shikoku Branch of the Japan Institute of Light Metals

岡野 聡

Satoshi OKANO

令和2年12月18日(金)に、若手フォーラムがオンラインにて開催されました。本会は、日本金属学会・日本鉄鋼協会との共催で実施されており、今回で48回目の開催となります。本会は、日本金属学会・日本鉄鋼協会 中国四国支部の支部講演大会における優秀講演賞の受賞者と、軽金属学会 中国四国支部の支部講演大会における優秀講演賞の受賞者が一堂に会し、記念講演および今後の展望について紹介して頂くという主旨で開催されました。

例年は中国四国支部のいずれかの会場で行っていましたが、本年度は新型コロナウイルスの影響で、実際に参加者が顔を合わせてフォーラムを開催することは非常に難しく、オンラインでの開催となりました。今回の全体の参加者数は21名で、講演件数は7件でした。以下に、発表者を紹介します。

【軽金属学会 支部優秀講演賞】

「Co合金の電子構造計算を用いた設計と形状記憶能をはじめとした特性評価」

中畑祐二 (広島大・院生), 結城健太 (広島大),
JAIHARN Thaeckai (広島大), 崔 龍範 (広島大),
松木一弘 (広島大)

「Ti-25Nb合金の準安定 α'' 相と ω 相に熱処理条件の変化が及ぼす影響」

伊井 杏 (香川大・院生), 田中康弘 (香川大)

「熱間押し出しによるAl/Mg₂Si複合材料の作製と評価」

石井智也 (鳥取大・院生), 音田哲彦 (鳥取大),
陳 中春 (鳥取大)

「LPSOからの圧力相転移で発生するD03/hcp二相組織の形成過程と機械特性の研究」

川端勇輝 (愛媛大・院生), 國光弘平 (愛媛大・院生),
田中伸治 (愛媛大・院生), 中田雄大 (愛媛大・院生),
松下正史 (愛媛大), 新名亨 (愛媛大), 肥後裕司 (JASRI),
河野翔也 (九工大), 飯久保 智 (九工大)

「Ti-15Nb-10合金の焼入れ組織形成に及ぼす溶体化処理条件の影響」

小林舞衣 (愛媛大・学部生),
村上太悟 (愛媛大・院生, 現:ヨシワ工業)

【日本金属学会 支部優秀講演賞】

「<110>傾角 Σ 3,3,9三重線を有する純銅および純アルミニウム三重結晶のクリープ破壊」

中尾和輝 (徳島大・院生), 森本博己 (徳島大・院生),
川口克哉 (徳島大・院生), 植木智之 (徳島大),
久澤大夢 (徳島大), 岡田達也 (徳島大)

「炭素繊維/アルミニウム複合材料の作製と特性評価」

小林開 (広島大・院生), 長岡 孝 (広島県西工技センター),
府山伸行 (広島県西工技センター), 杉尾健次郎 (広島大),
佐々木 元 (広島大)

オンラインでの発表にはオンライン会議システムZOOMを使用しました。参加者を広く募るため、本研究会の告知は軽金属学会HP会告および支部会員へのメールによるアナウンスを行いました。第三者が会議の内容を盗聴したり、機密情報をばらまくといったいわゆるZOOM爆弾を防ぐため、ZOOMのURLは参加希望の方に直接お知らせするという手法を取りました。また参加者は、ZOOMの名前を「岡野@愛媛大学」というように氏名と所属を明記することで、誰が聴講しているかがわかるようになります。質疑応答の際には、ZOOMの挙手ボタン機能を用いるか、あるいはミュートを外して発言することで、特に問題はなくスムーズに会を進行することができました。

このコロナ禍におけるオンラインでの発表については、すでに各支部での研究会や講演会、あるいは大学での講義や研究室でのゼミ等で頻繁に使用されていることもあり、参加者もかなり使用には慣れた印象でした。それでも、発表者のインターネット環境が不安定になることで音が飛んだり、あるいは接続が切れてしまうといったトラブルも起こりました。発表者の横に指導教員が居る場合はその場で対処可能ですが、自宅から一人で発表をしている場合は即座の対応が難しいため、発表者は大学で行う、あるいは自宅から行う場合でも有線でインターネットへ接続することが確実であると感じました。オンライン研究会においては、どんなに準備をしてもそういったマイナートラブルは起こる可能性があるため、元々発表プログラムを作成する段階で、時間に余裕を持って組むこととし、今回は発表・質疑応答合わせて15分の発表に対して、20分の時間枠を用意しました。トラブルがあった場合でもこの時間内に対処が可能であり、またトラブルが無かった場合でも、余裕を持って質疑応答でディスカッションを行うことができます。

また今回のフォーラムでは見受けられませんでした。オンライン発表では発表者の音声がかきこえない、というトラブルが最も多いと感じています。授業などでZOOMを使って聴講することはあっても、あまり自分のスライドを共有して発表する、という機会は無いかもかもしれません。こちらはマイクの接続操作に少し時間がかかりますので、講演前にZOOMの接続チェックを座長、あるいは会場係と行う作業は必須であると考えています。

最後になりましたが、新型コロナウイルス感染拡大の影響で、特に4月の段階では第138回春期大会や支部研究会の開催はおろか、日常生活もままならない日が続いていましたが、参加の皆様ならびに支部役員の皆様のご協力の下、無事に会を終えることができました。この場を借りて御礼申し上げます。2021年度は軽金属学会創立70周年という記念すべき年ですので、皆様と対面でお会いできることを切に願っています。